

立命館大学稲盛経営哲学研究センター 教育実践研究誌

RITA

利他の心で

教育を変える

仕事がおもしろくなる

vol.

2

利他の心と教育

②

RITA and EDUCATION

利他のDNAを
世界へ、
そして未来へ



RITA
LABO



稲盛和夫さんの青少年期に学ぶ 「レジリエンス」の授業

折れない心・復活力

内閣府が2013年に実施した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」によると、日本の子どもや若者たちは、諸外国に比べ、自分に自信がなく、将来に明るいイメージを持たず、仕事・勉強に挑戦する意欲が低いという結果が出ています。そのような現代の子どもたちに「生きる力」を育む授業・教材を創りたい。そう考え、RITUALABOでは、2015年11月、立命館中学校及び甲南女子大学にて、稲盛和夫さんの青少年期の伝記を基にした授業を行いました。

この授業の目的は、稲盛さんの人生を理解することによって、困難を乗り越えて成長する力「レジリエンス」について知り、これからの人生で挫折や困難に出会ったときに思い出し、役立ててもらいたいこと。そのために、①稲盛さんの人生を追体験する②自分自身に引き付けて考える③学んだ内容をリフレクション(内省)

する という3つの要素をワークに組み込んでいます。

個人ワークの結果をグループやクラスでシェアすることで、自分以外の視点・考え方をすることも、ここで体験してほしいことのひとつ。困難を乗り越えられない、挫折から立ち直れない、いわゆる「心が折れる」という現象には、事実を一方からしか見ることができない視野の狭さが関係しています。この授業では、稲盛さんの考え方を軸に、クラスメイトと話し合い、自らの考え方を広げ深めていきます。

この授業での気づきを、生徒・学生がこれからの人生で挫折や困難に出会ったときに役立て、成長の糧にしてほしい。そう願っています。



立命館中2年3組・4組のグループワークの様子

授業の流れ

立命館中学2年3組・4組での授業展開(50分×2時限)

1 導入：授業の紹介

- 今回の授業で学ぶ「レジリエンス」についての説明
 - ◆ レジリエンス(曲がっても折れずに元に戻る力)という概念をイメージできるよう、立命館中学校がある長岡京の特産品「竹」を使って解説。
 - ◆ 人物の例として、ソチオリンピック、ショートプログラムで失敗した後、フリープログラムで復活した浅田真央選手の例を紹介。

2 導入：稲盛和夫さんの紹介

- 経営者としての稲盛さんについてスライドで紹介(京セラ・KDDI創業、JAL再生など)
- 稲盛さんの少年期・青年期のライフストーリーの節目となったできごとをスライドで紹介

3 稲盛さんの体験を自分に引き付けて考えるワーク

- 個人ワーク：自分の大切な人(友だち、兄弟姉妹など)が稲盛さんと同じような困難な状況に陥ったら、どんな風に声をかけるか考える。
 - ◆ 第1志望の大学に行けなかったら?
 - ◆ 不況のため就職活動で苦労し、せっかく入った会社も倒産寸前だったら?
 - ◆ 当時は回復が困難だった結核のような病気がかかったら?
- グループワーク：声掛けの内容を4人グループで共有。他のメンバーの考え方を知り、その中で最も共感を得た声掛けを、それぞれ選んでもらう。
- 全体ワーク：グループ毎に発表。ファシリテーターがホワイトボードに書き、クラス全員で、もし自分が当事者だったら、どのように声をかけてもらったらうれしいかを考え、発表していく。



発表した声掛けを、分類して板書します。

4 稲盛さんの少年期・青年期を描いたテキストを読み、レジリエンスを感じる箇所をグループで共有するワーク

- 個人ワーク：気になる箇所、共感する箇所など、メモを取りながらテキストを読む。
 - グループワーク：各自で読んだ内容をシェアしあい、挫折や苦難を乗り越えて成功する稲盛さんの生き方について語り合う。
 - プレゼンテーション：稲盛さんのレジリエンスを、一番感じた箇所を発表し、クラス全体で共有する。
- ※ 甲南女子大学で試行した授業では、分担してテキストを読んだ後、グループワークで稲盛さんの「人生グラフ」を作成、発表しました。

5 リフレクション

生徒・学生の感想(抜粋)

立命館中学(2年3組・4組)

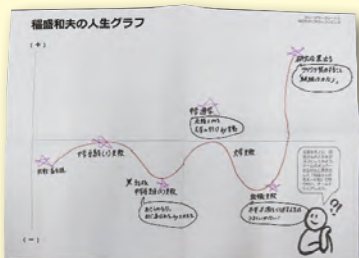
- 稲盛さんのように辛いことが2度3度重なっても、めげずに目標をもって生きる人生はカッコいい。挫折を糧にして高い目標を持てたらしい。
- 何事もポジティブに考えると、継続する力が生まれることに気付きました。辛い時も嫌な事もバネにして伸びていけたらいいなと思いました。
- どん底に落ちても、物事をポジティブに捉えられるのがすごい。自分も部活中にテンションが下がっていくことがあるけど、その時もポジティブに捉えて頑張りたいです。
- こんな辛いことがあったのに、がんばって幸せをつかみ取ろうとする姿勢がすごい!
- 挫折しても、物事を前向きに捉えて、その場所ががんばったところがすごいと思えました。会社でうまくいかず、それを忘れるためにひたすら研究するということがありましたが、自分でもうまくいかない時に同じようなことをするなと思いました。
- どんな時でもあきらめず、進んでいったからこそ、結核を治し、高校に入り、そして今、幸せをつかんだんだと思いました。こんなすごい人でも挫折していると知りました。

甲南女子大学(3回生/教職課程「公民科」)

- 土井先生も生徒思いで、稲盛さんも土井先生の意見もしっかり受け止めていて、いいと思った。(土井先生稲盛さんの小学校の担任。稲盛さんが中学に行けるよう尽力してくれた。)
- 「考えることが人生を変える」という考え方にびっくりしました。
- 人生に不幸が連続して起こっても、考え次第で未来が変わっていくことを知りました。
- 継続すること、熱意、考え方を変えるなど、大切なことをいろいろ学べた!
- 何度挫折してもまた立ち上がって、いつも前を向いていて本当に尊敬すると思った。
- 無償でリスクのある(JAL)再建に挑んだこと。挑戦し続ける勇氣。
- 天才ではない。最初から頭がよかったり、何でもできたわけではないところがいい。
- 稲盛さんの考えを知ることが、新しい考えが生まれてとてもいい勉強になった。

甲南女子大学

- 稲盛さんの人生を本を通して理解し、本当に挫折ばかりの人生だったのだと思いました。会社に入り、最後は辞めてしまうことになるけれど、次々と研究の成果が出て、それは、稲盛さんがされてきた努力の結果であると思いました。
- 大学の心理学の講義で最初にやった「心のグラフ」が、授業でも使えるんだなと思いました。グループワークも個人ワークも楽しかったです。一方だけの授業ではなく、また、発表したことに對して先生からフィードバックがあったのは、とても嬉しいなと感じました。
- 落ち込んでいる人への言葉を考えることで、自分が言ってほしいことに気付いたり、他の人が発表している声掛けの方がいいなと思うことがありました。ひとり考えていても出てこない答えがあり、勉強になりました。
- みんなで稲盛さんの人生をグラフに表したことが印象に残っています。グループによる個性が出て、他のグループの発表を聞くのがおもしろかったです。また誰かの視点に立つて、気持ちは考えることで、自分だけでなく、少しでも他者の気持ちを考えていられるようになったと思います。



学生が作った「稲盛さんの人生グラフ」



本授業で使った教材

利他の心と教育

志と協働を支える「利他の心」を教育に活かす

と

2

原発災害に立ち向かう福島県天栄村の取り組みに学ぶ「プロジェクト学習」と、立命館大学附属校教諭によるアクティブラーニングの取り組みを紹介した1号に引き続き、2号では、多面的な視点と論理的思考を育む「リベラルアーツ」の授業と演劇づくりを通じて多様性の受容と協働を学ぶ「演劇教育」を紹介。利他の心と教育の接点を探ります。

倉石寛
立命館大学 OIC 総合研究機構 稲盛経営哲学研究センター 副センター長。1971～2015年にかけて私立灘中学・高校で日本史の教鞭をとる。教頭時代には「土曜講座」を開講、卒業生を中心に、ソーシャルな活動をする専門家・実践経験者を招き、灘校生に偏差値を超えたキャリアについて考えさせる。歴史教育者協議会のメンバーでもある。

リベラルアーツ 本質的な「問い」が、生徒の思考を始動させる。

「クラカンの灘高・日本史リベラルアーツ授業」

生徒たちがロジカルシンキングやクリティカルシンキングを鍛え、ディベートで論破する力をつけること、それがリベラルアーツだと信じている向きも少なくない。しかしクラカンこと倉石寛教授のリベラルアーツ観は全く違う。勝ち負けをつけるためではなく、お互いの考えをじっくりと聞き統合していく、対話型の議論こそ、リベラルアーツだと考える。

今回は、日本史を題材にリベラルアーツを教えるクラカンの授業（2015年2月に灘高2年生に実施）を紹介するとともに、対談でクラカンのリベラルアーツ観を掘り下げていきます。

授業の流れ

資料の読み方を伝える

宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ」には、「寒サノ夏ハオロオロ歩キ」という箇所があります。寒サノ夏とは冷夏のこと。冷夏が東北の人々に与えた影響が窺い知れます。

資料1によると、賢治の生きた明治・大正の現代までの約100年の間に、東北では22回の凶作、8回の大凶作がありました。つまり、5年に1回は凶作、10年に1回近くは大凶作が発生したことになります。さらに、



凶作は連続することが多く、地域的には東北の太平洋岸・青森・岩手・宮城が凶作の度合いが強いのです。

資料2は、東北に近い日光御番所日記の記録ですが、天明の大飢饉があった1781～86年（天明1～6年）は、夏、寒くて雨の日が異常に多い。つまり、「寒サノ夏ハオロオロ歩キ」に対応する、東北の気候に起因した凶作だったのです。

さらに資料3・4の餓死者と人口減に関する資料によると、寒さの夏により凶作が続くと、東北諸藩は、

問い① 課題発見・設定の問い

江戸期、東北で飢饉が度重なり、多くの人が餓死したのはなぜか？



資料1 東北地方の水稲作の作況指数

冷害年	作柄	作況指数						
		東北	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
1902(明35)	大凶作	55	45	35	48	72	70	57
1905(明38)	〃	45	66	29	12	71	70	23
1906(明39)	〃	77	55	86	63	98	95	66
1910(明43)	局部的不凶作	-	-	-	-	-	-	-
1913(大2)	大凶作	48	19	59	46	67	47	48
1931(昭6)	凶作	82	51	88	93	84	90	88
1934(昭9)	大凶作	56	45	44	56	72	53	65
1935(昭10)	凶作	-	-	-	-	-	-	-
1941(昭16)	大凶作	72	40	69	70	83	98	73
1945(昭20)	〃	-	-	-	-	-	-	-
1953(昭28)	凶作	89	83	90	93	97	97	68
1954(昭29)	局部的不凶作	100	103	97	101	103	113	98
1964(昭39)	〃	99	91	97	93	105	104	92
1966(昭41)	〃	99	94	94	98	96	107	105
1971(昭46)	不作	94	101	94	96	93	90	92
1976(昭51)	凶作	90	91	82	90	95	92	89
1980(昭55)	大凶作	78	47	60	79	99	97	74
1981(昭56)	凶作	85	65	76	88	88	92	94
1982(昭57)	不作	96	99	89	91	103	97	94
1988(昭63)	凶作	85	84	85	75	93	92	76
1991(平3)	不作	95	87	90	90	94	92	94
1993(平5)	大凶作	56	28	30	37	83	79	61

作表指数…106以上<良>・102～105<やや良>・99～101<平年並み>・95～98<やや不良>・94以下<不良>・90以下<著しい不良>

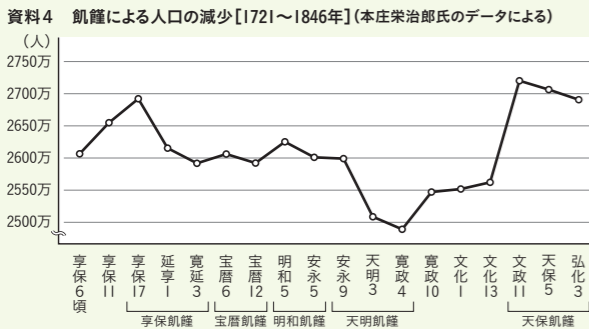
資料2 天明の夏の天気(日光御番所日記より)

	晴	晴～夕立	曇	雨	不明	計
天明1	35	11	13	31	2	92
2	45	4	5	37	1	92
3	33	2	10	47	0	92
4	37	0	20	25	10	92
5	48	5	8	31	0	92
6	26	3	15	46	2	92

資料3 各藩の状況

津軽藩	八戸藩	相馬藩	南部藩
人口 24万人程度 餓死 10.2万人 病死 3.0万人 逃亡 2.0万人 絶戸 3.5万人 ※18.7万人減(78%)	人口 7,184人 死絶 1,984人 立去 869人 ※死絶・立去で 2,853人減(40%)	48,242人中 16,575人減(32%)	30万人中 6.5万人減(22%)

⇒かくてこれらの藩は「藩」ではなくなりつつあった。



議論を方向付ける

数年連続して米の取れ高が例年の半分程度になります。各藩で政治経済が閉ざされていた江戸時代、幕府や他藩からの救援は期待できず、食糧不足により餓死者が続出しました。

- 大きな問いは、どのような筋道で考えていくといいのか、生徒たちが迷う可能性があります。そこで、補助となる問いを重ねて、生徒たちの議論を促進させていきます。
- 冷涼で雨の多い夏をくり返す東北に、米作は向いているのか？
- ではなぜ、東北諸藩は無理な米作りを続けるのか？
- なぜ寒冷地でも作りやすい、そばや麦・粟や稗を作らないのか？

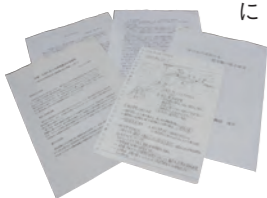
解答例を紹介する

幕藩体制は、米遣いの経済。各藩は、流通力のある米を江戸・大坂で売却して参勤交代や江戸滞在の費用を賄います。従って、農地の多くを水田にして、米の取れ高を多くすることが、藩政の使命になっていました。東北の藩主は飢饉の中、藩内の米(年貢)を江戸や大坂で売らなければならなかったのです。

クラカンの授業は資料とテーマが面白く、深く考えられる問いなので、生徒からはいろいろな意見が出ます。課題を解決するための問いではなく、課題を発見する問いを投げかけるのが、クラカンの特徴。史実では当たり前となっているフレームを疑う問いによって、課題を発見・設定する力が身に着いていくと考えているのです。

ある程度意見が出たところで、クラカンが議論を方向付ける問いを生徒に投げかけ、さらなる議論へと導いていきます。

クラカンは、長期休暇の際の宿題に、このような大きな問いを投げかけ、休暇期間中に生徒に考えさせます。これらは、その時は生徒たちの回答です。



問い② 課題解決の問い

それでは、東北の各藩は、 どうすればよかったか？



立命館大学
OIC 総合研究機構
稲盛経営哲学研究センター
金井文宏客員教授
(RITA LABO 担当)

全て実行したのが、米沢藩の上杉鷹山。紅花や養蚕等の商品作物の栽培を振興して藩の収入を増やす一方、江戸滞在等の諸費用を節約、領内の米や現金の蓄えを増やしました。

上杉鷹山のエピソード

- ①鷹山は参勤交代の費用を節約するために、大名行列を大幅に縮小。幕府からお咎めがないように、江戸に入る直前に多くの人足を雇い、行列の見栄えをよくして江戸入りした。
- ②多くの武士を帰農させて、養蚕等の新たな商品の作り方を教え、藩経済に寄与させた。

この日は、見学に来ていた金井さんが、クラカンに呼ばれて飛び入り参加。クラカンの根元的な問い「なぜ東北で米を作らなければならぬのか」を受け、江戸期の脱米の藩政について、生徒に藩主になったつもりで答えさせる課題解決型の問いを投げかけました。失敗すると、領民の半数近くが餓死してしまうことなど、藩主の責任の大きさも伝えました。

議論の後、 実際の解決例を紹介

- 飢饉を乗り切るために各藩ができる解決策は、3つ考えられます。
- ①江戸時代中期以降の経済は、米が安く、さまざまな商品作物の値段が高い。米価安諸色高の状態。米の替わりに、東北(寒冷地)でも育ち、江戸・大阪で高く売れる商品作物を植える。
 - ②参勤交代や江戸藩邸にかかる諸費用を倅約し、飢饉の時には米を領内に留めて領民にまわす。
 - ③餓死者を出さないため、寒冷に強いそばなどの作物を非常時の領民の食糧用として栽培しておく。当時、飢饉の時に食べられる野草や木の実を書いた本が米沢藩で出版され、農民たちの間で読まれていた。

この①～③の解決策を藩政改革で



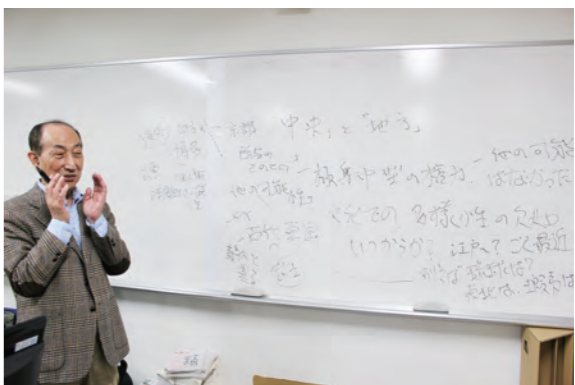
米沢藩を救った商品作物のひとつ、紅花

なお、このような対策を取らなかった南部藩では、飢えた農民たちが食糧を求めて他藩に逃亡しようとしたが、藩境は隣藩によって閉ざされており、多くが領内で餓死しました。

歴史から現代を見る

幕府と藩の関係は、現在の国と地方自治体の関係と類似した面があります。つまり、地方自治のやり方により、独自の地域振興ができる可能性を示しています(地方創生！)。

日本史や世界史の授業では、過去の出来事を覚えることなく、史実から学ぶことが重要です。リベラルアーツでは、当たり前とされている歴史を疑い、歴史の可能性を探究すること、あるいは現在から未来を構想する(世界へ国家へ地域社会のあり方を考える)素材となる考え方を、耕すことが求められています。



クラカンに
聞く！

なぜ今、リベラルアーツを学ぶのか？

金井 倉石先生は、授業では「問い」(何を考えさせるか)が一番大事といつも言っていますね。

倉石 そう、「戦国時代に、権力をどこに作るのか?」という授業では、戦国時代には権力分散型で、江戸時代から日本は権力集中型になったという意味を考えさせたかった。日本は戦国時代に、「二つ三つと別れていった可能性があったかもしれない」ということをね。

天下人になりたいと考えた戦国大名は、皆、京都という場所を目指したけれども、後に家康が江戸に移したということは、実は別の場所でもよかったと言える。つまり、戦国時代に、権力を奪いに京都に上るのではなくて、別の場所に権力を作った独立するという大名がいちもおおしくない。そこで「どこに権力を作ると強力か?」って聞いたわけ、考えにくれと。

そこでポイントとなるのが、中央権力として何が必要なのか。そういうものを持っている場所って、戦国時代、京都以外になかったのかと。

金井 その問いは、かなり面白いですね。

他の可能性を問うことで 議論が深まる

倉石 東大入試では「戦国時代に大名は、天下人になるため京都を目指した。では、京都には何があったか?」というような問いになる。これでは教科書にも書いてあるので、パッと正解のようなものが出てしまう。議論にならないし、深まらない。

ところが、「どこかに別な権力を作った独立する」としたら、君たちならどこに作る?と問うと、おもしろい議論が生まれる。島根と答えた生徒に「何で?」と聞くと、「島根は銀の産出がすごい(大森銀山)。世界の銀の何分の一かを出している。鉄もある。この頃、日本は世界で貿易をやっていたので、島根は銀の産出を基盤に、海外貿易を中心とした国家を作れば、京都より独立しやすい」と答えた。ただ、「文化的宗教的権威は島根にあるのか」と聞くと、その生徒は展開不足で答えられなかつ



クラカンのリベラルアーツ観や、授業のポイントを、RITA LABOの金井文宏教授がインタビューしていきます。

た。島根には、出雲神話・出雲大社があるので、権威はある。経済的には銀でいく。いちばん多かったのは、博多という意見。一つ目の理由はやはり貿易。博多はこの当時、経済的には京都と並んでいて、貿易は日本の流通の中で大きなウエイトを占めていた。鎖国でないから、博多はヨーロッパや中国との貿易の中継地にもなりやすくと、何人かの生徒は考えた。国内の端にあるとはいえ、日本海や瀬戸内は全部押さえられ、経済的な中心になることは可能だ。

二つ目は朝廷や將軍の権威。これは中国王朝と組む。古代や室町時代の前例もある。そうなると、朝廷よりも上にいけると考えた。四国には武士団に加えて海洋的な力があり、貿易も武力も京都より強そう。皆で考えていったのは、歴史的には鎖国になって国内だけの流通になったけど、海外貿易が続いていたら、日本はもつとアジアへ行くことになって、そうなると九州は京都の朝廷よりさらに広い世界につながっていくということ。経済の力としては、貿易の富の方が大きいわけだから、日本国内の経済よりも上回るものが貿易で入ってくるとすれば、博多の方が京都の政権より上になる。

こう考えていくと、東大2次試験のような「問いに対する正解を答える」ということではなく、「政治権力の本質とは何か?当時の世界史の中で、日本でも海洋国家的なあり方を実現できたか?」などと自由に展開していくことが重要。そうでないと、日本史の決まりきった既成の枠組みの中で正解を出すという、単調な口ジカルシンキングになる。

金井 海洋国家の権力の中心としては、西国の方が京都より圧倒的に有利。実際、大内氏があれだけ日明貿易で儲けていたことを考えると。

クラカン日本史リベラルアーツ発問集

Q1 漢字の読みと中国からの文明伝播の時期

日本語の漢字が、中国から伝わったものであることは周知のことである。その際に、その読みも伝わっており、中国伝来の読みは音読みと言われ、今日に残されている。この音読みには、右の表に示されるように、3通りの読みをする漢字がある。それは、中国からの文化の伝来の3つの大きなピークを示している。第1の呉音は中国南部江南地域からの音、漢音は長安など都のあった黄河流域地方の音、唐音は呉と同じ地域の音で宗教関係に関わる音が多い。それぞれの読みの伝播した時期と、その文明伝播の特徴について記せ。

漢字	音読
行	ギョウ
	ヨウ
	アン

Q2 漢字・ひらがな・カタカナと識字率

近世の日本は、識字率が高かった。それは寺子屋の普及もあるが、3種類の文字を持っていたことが大きな役割を果たしたと言われる。それぞれの文字を誰が使ったかということヒントに、その理由を考えよ。

Q3 江戸時代の対外窓口と明治以降の過去認識

1 江戸時代における対外関係について、18世紀、通商を求めたロシアに対して幕府代表の遠山景晋が答えたところによれば、幕府は公式な認識として、対外的な窓口を、薩摩・長崎・対馬・松前の4つとしており、通商はオランダ・中国・朝鮮・琉球・蝦夷としていた。しかし、明治以降、鎖国下での「世界の窓」は長崎だけと記されるようになり、16世紀に渡来交流していたヨーロッパへの窓は「鎖された」といった記述になる。他の3つの窓はなく、中国・朝鮮・琉球などは、相手国としての記述が無くなる。それが再び登場するのは1970年代のこと。それはなぜか。

2 江戸時代の「当事者の事実」は明治以降の「過去認識」には入ってこなくなった。その背景には、明治以降の日本人が「世界」をどのように捉えていたかを反映していたと考えられる。歴史家のE. H. カーが言ったように「すべての歴史は現代史」であったといえる。では、明治以降の「世界」についてのどのような捉え方が、こうした記述に反映していると思うか。考えを述べよ。

Q4 書物が庶民に広まった理由

江戸時代には、木版による大量印刷という技術が生まれ、例えば浮世絵などは多くの庶民も手に入れることができた。本も「東海道中膝栗毛」のような庶民向けのものが出版されたが、何ページもの印刷になるため、それほど安いものではなかった。それでも「東海道中膝栗毛」を多くの庶民が読めたのは、貸本業が生まれたからである。それでは、貸本業のリスクは何か。それでもこの時代に貸本業が成立したのは、人々の意識・観念がどのようなものだったからか。

Q5 明治政府と徴兵制

明治政府を作ったのは旧武士である。ところが彼らは、近代国家を作る時、徴兵制を取り入れた。それは、出身母体である武士階級に対する裏切り行為ともいえる。それでも彼らが徴兵制を取り入れなければならないと考えた背景は何か。

RITA LABOホームページにて、上記の発問に対する、クラカンの解説等を掲載しています。併せてご覧いただき、ご自身の授業でご活用ください。 <http://www.ritalabo.jp>

世界史とのつながりから新しい日本史を考察する

倉石 日本人というのは、商業民族というのが理解しにくい。貿易で強力な国家を作るイメージがない。実際、日本史を見ても、商業で成り立っている国家はないんですよ。全部農業へ行っちゃあ。ところが世界的にはあるじゃないですか。遊牧国家とか、イタリアの商人とか、あるいは重商主義のオランダやイギリス。

金井 中東のキャラバン都市、ダマスカスとかもある。日本だと大阪商人が一番近いけれども。

倉石 この議論をやり出すと、先生の方がわからなくなってくる。

金井 本場に日本人って商業が弱い。

倉石 日本では、商業は倫理的に下に思っ、発想の中になんだよね。多文化というのも苦手だ。

金井 士農工商で、多文化を相手にする商が一番下。

倉石 高校生にとっては、豊臣や徳川が九州を押さえて鎖国になったイメージが猛烈に強くて、あの時代に海洋国家になって琉球から中国・東南アジアへ伸びていく可能性があったということが、全く構想できない。

金井 世界史なら、石見の銀っていうのが、世界中の貿易の価格革命を起こして、メキシコのポトシ銀山と石見の銀山で世界の銀の流通が2〜3倍になった。だから、銀を持っていくと大金持ち。

倉石 ところが、その意味が日本人にはわからない、全く。島根でもわかっていない。

金井 授業の最後に「これから30年たったら、世界の経済の中心ってどこになると思う？」と聞くと、生徒はアジアって言う。日本の中で一番アジアに近いのは、博多や島根だ。「だとすれば、ここはかつてのようにならぬ心になり得るでしょ？」と。ところが、島根が日本の中心になるというイメージがわからない。島根は田舎のままいくと。

倉石 だからおそらく、島根が権力を保持と言った生徒も、銀を中心とした海洋貿易国家は構想できない。

金井 室町時代は貨幣経済だけど、日本史では一番わかりにくい時代で、こういうことを教えきれない。

倉石 結局教えているのは、分かりやすいことだけ。都市といえば文化の話ばかり。將軍がああしたこうしたってことしか言っていないから、日本は島国で村でということだけが頭に残っている。

金井 江戸時代に作られた日本の原イメージ。

倉石 トを起こして、うまくいってない、おかしいと思ひ、そこからさらに思考を先に進めていく。おそらく「問い」よりもプロジェクトの方が強烈。現実そのものだから。自分で考えて組み立てていくということが重要で、いいトレーニングになる。

金井 リベラルアーツの授業は、問いとテーマ設定が大事。二番目は、先生と生徒、生徒同士がディスカッションを起こして、うまくいってない、おかしいと思ひ、そこからさらに思考を先に進めていく。おそらく「問い」よりもプロジェクトの方が強烈。現実そのものだから。自分で考えて組み立てていくということが重要で、いいトレーニングになる。

倉石 プロジェクト学習でも、課題や現実と自分の考え方がコンフリク

金井 リベラルアーツの授業は、問いとテーマ設定が大事。二番目は、先生と生徒、生徒同士がディスカッションを起こして、うまくいってない、おかしいと思ひ、そこからさらに思考を先に進めていく。おそらく「問い」よりもプロジェクトの方が強烈。現実そのものだから。自分で考えて組み立てていくということが重要で、いいトレーニングになる。

倉石 例えれば海洋の話をする、イスラム教徒だった明の鄭和は、大船団で海を渡って、インドネシアとかマレーシアに本拠地を作って、イスラムのネットワークを築く。それが財産になって残っていくわけですよ。華僑とかみみたいな形で。

金井 実は日本も、日明貿易をしたり、信長、秀吉は南蛮貿易にも熱心だった。東南アジアに日本人町がいっぱいあった。

倉石 貿易を海洋文化とする地域がある。だからそういう道もありえた。色々な民族のところに行って、交流しながら新しいものを作った。

金井 銀の革命の時代に、香辛料とか砂糖、コーヒーとか力カオなど、アジアやアフリカで生産させて、ヨーロッパの文化スタイルに落とし込んでいきますよ。一方、現地では奴隷労働が広がりますが…。これがヨーロッパ人のやり方です。

倉石 実は、日本にもその可能性があった。

金井 でも、その可能性を潰した。

倉石 そういうことを全部忘れて、鎖国して、日本は米中心の単一民族だという文化になってしまった。そういう歴史観や常識を揺さぶって、「生徒たちの思考の枠組みの中に、可能性とか方向性とかをつくっていく

と突っ込んで研究しよう！」と言ってもよかったのかなと。

もう一つ大事なのが、議論の質。議論というと、勝ち負けを競うアメリカ的なディベートを思い浮かべる方も多いと思いますが、それでは深えを深めていく、イギリス的な議論をすることが重要だと、私は考えています。

倉石 ションのレベル、議論のプラットフォームのレベルを上げて考え方を深めていくということ。議論している中で、その地域・時代の本当の課題が少しずつ見えてくるという。

倉石 灘校ではできなかったけど、ヨハネの森コース（国際暁星学園）のように、議論がある程度進み、テーマ設定ができたところで、興味のある生徒たちでチームを組んで、「もっ

というのが一番大きい問題で、リベラルアーツの本質だと思う。

思考を始動させる「問いかけ」とテーマ設定

金井 倉石先生の日本史の授業は、授業の最初の「問い」が「うーん」となるほど面白いと、授業を受けた生徒が言っています。社会科の授業は「議論したくなる」ような面白いテーマ設定が大事で、それがリベラルアーツの入力口。倉石さんはいつも奇想天外な、常識を疑うような問いかけをする。日本史の最初の時間で、「この日本史の時代区分は正しいのか？他の区分のやり方はないのか？」と挑発するのは有名で、みんなが当たり前としている地盤を崩してしまう先生なんです。

倉石 小学校では、そういう授業結構やっているんですね。ところが、小中高大と、生徒はだんだんしゃべらなくなってくる。おそらく日本の一番困難な点は、生徒が自発的にしゃべらない点。思ったことを口に出して言える場所がなくなっている。

金井 特に高校がそうになっている。

倉石 そうですね。規律が内面化しているというか、発言しても仕方ないときらめられている。ある時期までは礼儀正しさと規律はあった方がい

と突っ込んで研究しよう！」と言ってもよかったのかなと。

もう一つ大事なのが、議論の質。議論というと、勝ち負けを競うアメリカ的なディベートを思い浮かべる方も多いと思いますが、それでは深えを深めていく、イギリス的な議論をすることが重要だと、私は考えています。

というのが一番大きい問題で、リベラルアーツの本質だと思う。

思考を始動させる「問いかけ」とテーマ設定

金井 倉石先生の日本史の授業は、授業の最初の「問い」が「うーん」となるほど面白いと、授業を受けた生徒が言っています。社会科の授業は「議論したくなる」ような面白いテーマ設定が大事で、それがリベラルアーツの入力口。倉石さんはいつも奇想天外な、常識を疑うような問いかけをする。日本史の最初の時間で、「この日本史の時代区分は正しいのか？他の区分のやり方はないのか？」と挑発するのは有名で、みんなが当たり前としている地盤を崩してしまう先生なんです。

倉石 小学校では、そういう授業結構やっているんですね。ところが、小中高大と、生徒はだんだんしゃべらなくなってくる。おそらく日本の一番困難な点は、生徒が自発的にしゃべらない点。思ったことを口に出して言える場所がなくなっている。

金井 特に高校がそうになっている。

倉石 そうですね。規律が内面化しているというか、発言しても仕方ないときらめられている。ある時期までは礼儀正しさと規律はあった方がい

多文化共生時代の コミュニケーションを 演劇で学ぶ。

「平田オリザの高校生演劇教室」



グローバル教育、コミュニケーション教育の必要性が指摘され、英語力向上やプレゼンテーション・スキルの育成に力を入れる学校も多い。いずれも、スキルである。しかし、スキル以前に多様性を受容し、違いを楽しむマインドセットこそ、これからのグローバル教育、コミュニケーション教育に必要なのではないだろうか？
演劇を通して多文化共生を体感する「平田オリザの高校生演劇教室」を紹介します。



チームで協力して創ったシナリオに合わせて演じる高校生たち。練習を繰り返すうちに、表情もどんどん豊かになっていきます。

レッスンの流れ

2015年12月25日、27日に立命館大学OICで開催し、関西の高校生10数名が参加した「平田オリザの高校生演劇教室」。レッスンを通して生徒たちがどのように変わったのか、時系列でレポートします。

1日目は、演劇づくりを始めるためのイントロダクション。ボディワークやコミュニケーションゲームを通して、他者と触れ合うこと、演じることに少しずつ慣れていきます。最初は少し硬い表情だった生徒たちも、レッスンが進むにつれ、表情もほぐれていきます。

2日目は、いよいよ演劇づくりスタート。オリザさんからシナリオ創りのレクチャーを受けた後、生徒それぞれが考えてきた演劇の設定（場所・背景・問題）のアイデアをホワイトボードに貼りだし、それを見た生徒たちが、自分が演じたい設定に投票。上位2つが選ばれ、そのアイデアに共感したメンバーがチームになって演劇を創っていきます。

3日目。生徒たちは、自分たちが考えたシナリオに沿って実際に演じながら、シナリオに修正を入れ、完成度を高めるために「稽古」を重ねます。頭で考えたときには面白かつ

3 みんなの共感を集める 2つのアイデアを選ぶ

みんなが考えてきた「場所・背景・問題」を、ホワイトボードに貼り出し、共感する、演じてみたいアイデアに投票。選ばれたアイデアのもと、2つのチームが誕生しました。



1 場所・背景・問題の アイデアを考えてくる 2日目

参加者には、あらかじめ「演劇入門」（平田オリザ著）を読み、自分が作りたい演劇の「場所・背景・問題」のアイデアを考えてくるという宿題が出されていました。



1 まずはカラダほぐしから スタート 1日目

2人1組や3人1組になって、ことばではなく背中や舌で語り合ったり、完全に体重を預けて「ゆだねる」を体感します。体がほぐれることで、心も徐々に開いていきます。



4 登場人物とプロットを 考える

チーム毎に元のアイデアを膨らませ、登場人物や場面、プロットを検討。コンテンツとしてはおもしろくても、演劇にすると不自然だったり、状況が伝わらないことも。



2 シナリオ創りの レクチャーを受ける

設定した場所や背景などのイメージを観客と共有するためには、第三者が登場させることが重要。他者とのやり取りの中で、場面や背景が自然な形で観客に伝わります。



2 ゲームで「演じる」を 体験する

1〜50のカードを引いて、数字の多さに比例する「活発な趣味」「おとなしい趣味」を即興で演じ、その会話からお互いにカードの数字の大小を探ります。



5 台詞や動きをつけて シナリオを創っていく

登場人物に台詞や動きをつけ、シナリオを作成。実際に声に出して台詞を読んだり、身体を動かして演じてみながら、自然な展開、台詞、動きへと調整していきます。



3 キャッチボールと縄跳びを 「エア」で演じる

自然に背景や状況を観客に伝えるには、**どんな場所に、どんな人物が登場する必要があるか、考えない。**

【場所】 最もいいのはセミパブリックな場面。例えば、地方の結核療養所の面会室。出入りする登場人物でドラマができます。

【背景】 他者を導入することで、自然なコミュニケーションが発生します。例えば引っ越しなら、業者がいて、お父さんの友達や近所の人が手伝ってくれるので、コミュニケーションが生まれ、背景が自然な形で観客に伝わります。

【問題】 主人公ひとりに問題を抱えさせすぎないこと、登場人物に多様性を持たせることが重要。例えば、倒れている人がいた場合、「助ける」「隠す」「逃げる」など多様な反応がほしい。忠臣蔵が長く演じられているのは、主君が死んで赤穂藩という共同体が大きな運命の変化に会い、藩士たちの価値観が多数交錯するからなんです。

子供の頃誰もが体験したことのある遊び、キャッチボールと縄跳びを「エア」でやってみます。キャッチボールはごくちなく、縄跳びはスムーズに。



キャッチボールと縄跳びの違いは？

キャッチボールは、速度やコースなどイメージの個人差が大きく、共有が難しい。また、2人ずつばらばらで演じ、観客もいません。一方、縄跳びは、集団的記憶が高校生に残っているため、イメージを共有しやすく、全員で演じ、観客もいるため演じやすい。「イメージの共有のしやすさ」「集団でひとつのことをやるのか、ばらばらでやるのか」、この2つの視点で理解することが重要です。

6 自然な演技のコツを 体感する

シナリオ創りの合間の演技レッスン。台詞に力が入りすぎる生徒には、寝転んで雑誌を読みながら台詞を言うよう伝え、余分な力の抜けた自然な演技を引き出していきます。



たシナリオが、実際に演じてみると、複雑すぎて面白さがうまく伝わらなかったり、逆に演じてみることで新しいアイデアが浮かんだり。また、プロットを考えるのが得意な人、自然な台詞を思いつく人、間の取り方がうまい人、力の抜けた演技のできる人など、生徒それぞれが自分の得意を活かしながら、演劇づくりに取り組みました。

昼過ぎにはオリザさんを前にリハーサル。説明的な台詞や不自然なプロットなどについて厳しいフィードバックがあり、今まで創り上げてきたシーンを一から考え直す場面も。それでも生徒たちは、タイムプレッシャーと戦いながら、指摘を受けたポイントをぎりぎりまで修正。自主リハーサルを繰り返し、段取りや台詞を叩き込みます。

夕方17時。いよいよ発表。3日間の集大成は、演劇としてはまだまだ十分なものではありませんでしたが、校風の異なる高校の生徒や先生たちが出会い、異種混合チームで取り組んだこのワークショップは、参加した彼らにとってまさに、多様性に気づき、違いを受け入れて、ゴールに向けて協創するという、多文化共生のプロセスを体験する場となりました。

平田オリザ、演劇教育を語る。

——演劇教育に取り組む意味とは？

演劇とは集団でイメージするゲームです。演じ手が強いイメージを発信し、そのイメージを観客が共有できるかどうか、それが鍵なのです。それがあって初めて観客は演劇の世界に引き込まれます。普段の会話でも、イメージの共有ができていない時に強いことを言われると、ひいてしまいか「キモい」となるでしょう？ 劇作家はイメージ共有を仕掛け、虚構を創る名人と言えますね。

そして、イメージ共有が大切なのは、演劇の世界のことだけではなく、現代の日本社会では、人々のコンテキスト（文脈・背景）がバラバラだということを前提に、イメージを共有することが課題となっています。ここに演劇教育を学校へ導入する時代の要請があります。

演劇教育では、グループでシナリオを創り、演じることで、相互理解とイメージ共有の大切さに気付くことができます。

——欧米のハイスクールでは、演劇教育に力を入れる学校が増えている

3日目

「結婚式前日に新郎が急死。花嫁の決断はいかに？」

チーム A

生徒が考えたプロット

- 結婚式の前日に新郎が急死した。しかし新婦は結婚式をしたいと思い、結婚式の会場に親戚や友人を招待している。
- 式直前のロビー。結婚式の業者、司会者（新婦の友人）、新婦の妹と弟が、この事態をどうしたらいいか、話し合っている。
- 本来なら結婚式をやめて葬式をすべきだが、新婦は結婚式をしたいと言い張る。新郎の家族や親戚・友人への感謝を示したいとの理由。大金持ちの叔母が新婦を支持する。
- 結婚式を行う。



講評 花嫁の心の揺れを表現するには、決定的な外的変化が必要。

演劇では大きな嘘をつきませんが、そのためにはディテールをていねいに作り込まないと。細部はリアルだけれど、全体としてはだまし絵になっている、それが演劇。細部がよくないとお客さんに突っ込まれる。この場合、普通は新郎の両親は悲しみ、葬式をしようとするはず。そういった葛藤も描かないと、嘘っぽくなる。「もちろん中止ですよ」という台詞もだめ。「中止じゃない？」として、リアクションを展開した方がいいね。演劇は、内的な心の変化を表現するのには向いていない。過去の心を語るのもおかしい。だから、花嫁の心が揺れていることを表現するためには、「それなら揺れ動かしなさい」と観客を納得させるような、外的な変化がないといけないうです。

「ハロウィンパーティに謎の客、現る。その真相は？」

チーム B

生徒が考えたプロット

- ハロウィンの夜、あるお店でハロウィンパーティが行われている。
- 店員たちの間で、昼間に別の店に来た謎の客（変な人）のことが話題に上る。
- 店長は遊びに来た客のひとりに好意を寄せている。
- 店長が好意を寄せていた客が席を外す。
- 謎の客が店に現れ、店員たちは接客を押し付け合うが、席を外していた客が戻るのを見るなり、店長が接客を希望する。
- 謎の客が、実はその客の生き別れた親とわかる。



講評 伏線と現実性のバランスが大事。自然な形で背景を伝える工夫を。

店長がハケてからワンシーンつくらないと、店長が席を外した客に好意を寄せていることがわからないね。「あの店長キモイよ、見え見えだね」というような台詞を入れるだけで、状況が観客に伝わります。このボディの部分の部分が薄っぺらいですね。プロットのバランスも重要。店長が好意を寄せている客が母子家庭だということや、謎の客のことなど、店長が来た時に伝えておいた方がいい。そこまでしてから謎の客が来るとわかりやすい。また、謎の客がいなくなった時に、客が店員を呼びに行って「何あれ？」「変なの来た」という会話があれば、客が気持ち悪がっていることがわかりますよ。後半の展開は良かったです。



平田オリザ
劇作家・演出家・青年団主宰。こまばアゴラ劇場芸術総監督・城崎国際アートセンター芸術監督。東京藝術大学 COI 研究推進機構 特任教授、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター客員教授、四国学院大学客員教授・学長特別補佐、京都文教大学客員教授。

「多文化共生」は、自分の価値観を疑い、相対化するところから始まるんです。

そうですね。日本の学校で演劇教育を実施するならば、小中高と、どのようなカリキュラムになりますか？

演劇というより、表現というくくりの方がいいかもしれません。

小学校の段階では2つの軸があります。ひとつは国語に近く、言語運用能力を育てるということ。文章を読んで「この後、君なら何を言う？」と聞いていきます。もうひとつは「コミュニケーションづくり」。幼児のままの遊びのように役を演じたり、役割を入れ替えて遊ぶレッスンです。幼稚

園や保育園でやることを、小学校でもやっていきます。

小学校高学年から中学校の段階になると、今回の演劇レッスンでやったような方法で、「誰でもが演劇できる」という状態にしたい。人間関係を論理だけで捉えるのではなく、「異文化理解」でつながる体験を共有する機会にしたいですね。

高校の演劇教育は、芸術としての演劇を創る段階になります。これは演劇（表現）コースの高校や、選択の授業で実施するイメージです。

——利他、を考える時にも、グローバルな「異文化理解」が鍵となると考えています。オリザさんの実践か

演劇教育に特に熱心なのは、オーストラリアやカナダなど、多くの移民を受け入れている国。英語の運用能力の向上や、異文化の子どもの理解する教育として重視されています。例えばニューカマーの子どもたちにも、演劇の中で「おいしいセリフを言う」役割を与えて自己肯定感を高めるというようなことですね。

——利他、を考える時にも、グローバルな「異文化理解」が鍵となると考えています。オリザさんの実践か

利他ラボ RITA LABO

RITA LABOは、稲盛経営哲学研究センターの教育実践研究部門として、利他の心を軸に、教育の未来を切り拓きます。

<http://www.ritalabo.jp>

お問い合わせ: contact@ritalabo.jp Facebook [rita rabo](#) 検索

発行: 立命館大学 OIC総合研究機構 稲盛経営哲学研究センター RITA LABO (リタラボ)

大阪府茨木市岩倉町2-150 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

編集人: 金井文宏、奥野美里

RITA LABOでは、オープンラボの一環として、RITA CAFE, RITALABOブッククラブ等、オープン参加のイベントを開催しています。ホームページやフェイスブックページで告知していますので、ご覧のうえ、ぜひご参加ください。